

ロボットをチームに迎えて生産性を向上 いまさら聞けない「RPA」とは？ UiPathを選ぶ5つの理由



働き方改革とDXを実現するRPA

業務改革・働き方改革の旗手として注目されるRPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)。コンピューター上の作業を自動化する技術で、すでに日本国内の多くの企業で導入が進んでおり、工数削減や時間創出、さらにはモチベーション向上、働きがい改革などの効果を生み出すことに成功している事例も多く見られます。

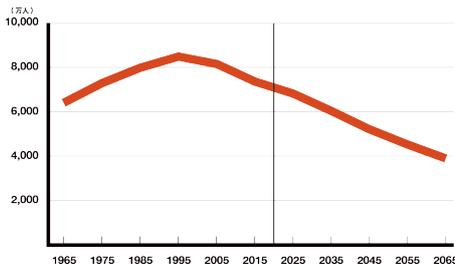
RPAツールは、複数のシステムをまたがっておこなうPC操作の自動化や、大規模なシステム開発だけでは解決しきれないような現場業務の効率化を大幅に加速するソリューションとして注目を浴びています。

また、テクノロジーの進化に伴い、さらに高度で複雑な業務の自動化や、複数のシステム間の連携をシームレスに実現できるようになり、企業全体のDX(デジタル・トランスフォーメーション)を担うソリューションとしても改めて注目されています。

いま日本でRPAが注目されている背景とは？

日本において特にRPAが注目されている背景には、様々な社会課題があります。日本の抱える社会課題を解決するソリューションとして、RPAの導入を進める企業が増えています。

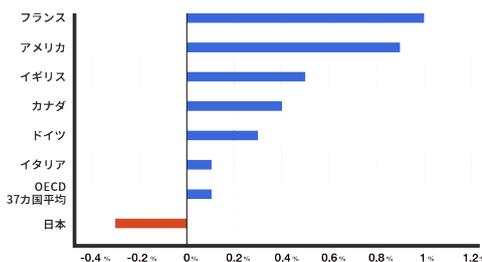
1. 生産年齢人口の減少による人材不足



少子高齢化の進行により、日本の生産年齢人口(労働力としての中核をなす15~64歳)は、1995年をピークに減少傾向にあり、今後も減少傾向は続く見込みとなっています。また、生産年齢人口は7,318万429人と依然として全体の6割を割りこんでいます。企業や組織にとっては**人材確保が課題となり、その解決策としてRPAを導入し活用する企業が増えています。**

※グラフは「総務省 平成29年版 情報通信白書」をもとにUiPathにて手を加えて作成

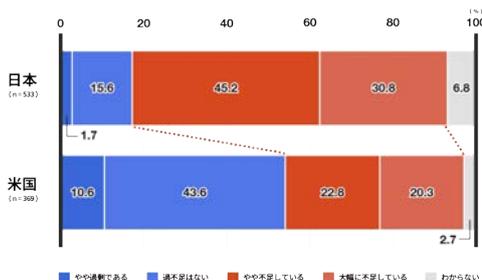
2. 労働生産性の低迷



日本の一人あたり労働生産性は1994年以降、20年以上にわたりG7(先進7カ国)では最下位になっており、2010年代後半の実質労働生産性上昇率においては-0.3%とG7では唯一マイナスの上長率になっています。生産年齢人口の減少にともない労働生産性の向上が急務になりますが、**RPAのロボットが定型業務を担い、人間が高付加価値業務にシフトすることで、労働生産性の迅速な向上が期待できます。**

※グラフは「公益財団法人 日本生産性本部 労働生産性の国際比較2020」をもとにUiPathにて手を加えて作成

3. 高まるDXの重要性



人材不足や労働生産性の低迷など社会課題を解決しつつ、企業や組織の国際的な競争力を高めていくには、DXの推進が不可欠です。日本と米国のDXの取り組みを比較すると、「DXに取り組んでいない」企業は日本33.9%、米国14.1%と大きな差が出ており、総務省の2021年版の情報通信白書によると、DX推進の課題として53.1%の企業が「人材不足」を挙げています。RPAの開発者を増やすことで、DXを担う人材を育成し、取り組みを推進していくことが可能になります。

※グラフは「IPA独立行政法人 情報処理推進機構 DX白書2021」をもとにUiPathにて手を加えて作成

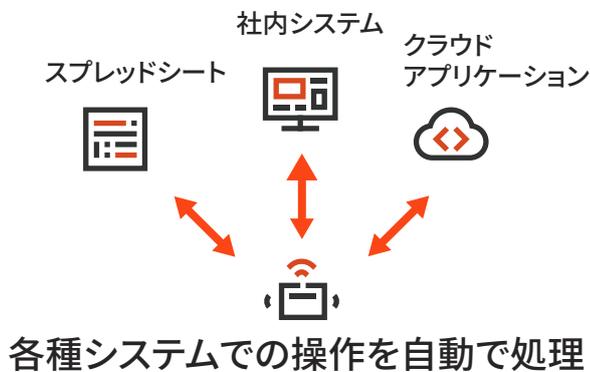
RPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)とは?

RPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)は、ソフトウェアロボットを使って、コンピューターを使ったデスクワークなどの業務を自動化するテクノロジーです。コンピューターの画面上における人間の操作を模倣し、システム間で発生するやりとりを自動化し、ロボットが処理を行う技術です。

RPAのロボットは、コンピューターの画面上で人間が行う操作を代替し、正確に・高速に処理することを得意とし、ウェブサイト、社内システム、Microsoft Excelやメールなど、PCの画面上でおこなうあらゆる操作を自動で実行することができます。RPAを使うことにより、プログラミング言語によるシステム開発よりも迅速に導入でき、現場の業務に即した自動化が実現できます。

実際にRPAを使って業務を自動化するには、コンピューター画面上のどこで、どのような操作を、いつ行なうかといった一つ一つの操作を指定する必要があります。このような、ロボットへの指示を作成する開発ツールや、実際に処理を実行するロボット、それらを管理するツールなどを総称して、一般的にRPAと呼ばれています。

あらゆるシステムのPC画面上の操作をロボットが人間のかわりに操作



RPAを使うことで、ウェブブラウザ、社内システム、クラウドアプリケーション、Microsoft Officeなど、幅広いシステムにおける画面上の操作を自動化することができます。

異なるシステムをまたがった操作も迅速に、ミスなく実行することができます。あるシステムから別のシステムにデータをコピー&ペーストで転記したり、毎日ウェブサイトから情報を取得して記録するといったような作業が自動で処理できるようになります。

人間よりも正確で高速。コンプライアンス対応も

人間の作業



時間がかかる
ヒューマンエラーが起こる
ログが残らない

ロボットの処理



正確で高速
指示どおりミスなく処理
ログが残る

人間と違い、ロボットは指定された操作をミスなく高速に処理するので、作業の効率が圧倒的に向上します。人間が数時間かける作業を、ロボットは数分で終えることもあります。作業の記録が残ることによってコンプライアンスの向上にも役立ちます。

ただし、ロボットは指示通りに動くので、様々な状況を想定して正確な指示をし、例外的な状況で操作が完了できない場合の動作を指定しておくなどの対応があらかじめ必要です。

人間とロボットにはそれぞれ得意分野がある

人間とロボットにはそれぞれ得意分野があり、得意な人に任せることで成果が上がるように、数ある業務プロセスの中からロボットが得意な作業を探すことが業務自動化の最初の一步となります。人間が行うデスクワークのうち、ロボットが処理するのに適した業務を探し、自動化することで業務の効率が圧倒的に向上します。

RPAのソフトウェアロボットを使って事務作業を短縮することで、人間は企画や提案、コミュニケーション、分析、議論といった、よりクリエイティブで人間にしかできないような仕事に時間を割くことができるようになります。

RPAロボットにはどんなことができる？



6つの得意な作業

RPAを使った自動化には、特に適している業務と、あまり適さない業務があります。**繰り返し行う業務(反復)**や、**ルールに基づいて処理できる業務(単純)**はRPAを使った自動化に最も適している業務と言えます。では、どのような動作をルールに基づいて繰り返すことが、RPAに適しているのでしょうか？

人間が日々行っている業務のプロセスは、細かい作業の組み合わせですが、システムにデータを入力したり、データを加工して送付するといった作業に分解してロボットに指示することで、それぞれを自動で実行することができるようになります。

人間がコンピューターの画面上で行う操作のなかで、特にロボットが得意とする代表的な処理の例には、「入力」「転記」「照合」「モニタリング」「送付」「集約・加工」の6つが挙げられます。

入力

データやテキストを入力する

ウェブサイトや社内システム、ビジネスアプリケーションなどで、画面上にデータやテキストを入力する操作を自動化します。システムへデータを登録する際や、自動メールの作成などが可能です。

転記

データやテキストを転記する

システムからデータを受け取って別のシステムに転記する操作を自動化します。複数のシステムを使用した業務を行う場合に、システム間のデータの転記ミスを減らし、作業時間を短縮します。

照合

情報を比較し、照合する

異なる画面からの情報を収集し、情報の内容を比較して精査する操作を自動化します。

モニタリング **モニタリングして、異常を検知して報告する**

システムのデータを24時間監視し、異常を検知した場合にユーザーに報告するという作業を自動化します。定期的にデータを確認する手間や、異常による問題への対応の遅れを防ぐことができます。

送付

情報を収集して回答する

問い合わせを受け取った際に、必要な情報を収集して回答したり、定期的に情報を収集してレポートとして送付するという作業を自動化します。

集約・加工 **データを集約・加工する**

システムから収集したデータを、ルールに基づいて集約・加工する操作を自動化します。集計作業や、データのクレンジング等時間のかかる作業を自動化することでミスなく迅速に処理が行えます。

たとえば、こんな業務がRPAのロボットで自動化できます

例1

メールで受信した取引先情報を社内システムに新規で追加する

メールで受信した取引先情報を、Webのアプリケーションに新規取引先として追加する作業を自動化する例です。

Microsoft Outlookと社内のウェブシステムを行き来し、データを転記する作業が簡単に自動化できます。

1

アクティビティを使用して添付ファイルを繰り返し保存する

Outlookで受信したメールに添付されたExcelファイルを特定のフォルダーに繰り返し保存するよう指示します。

2

アプリケーションのカードで入力先のアプリケーションを指定する

取引先情報を登録する入力先の社内システム (Webアプリケーション) を指定します。

3

「フォルダー内の各ファイル」アクティビティを使ってファイルを読み出す

フォルダーに保存したファイルの読み出しを指示します。

4

読みだした情報を社内システムに入力する

3で読みだしたファイルの情報を、2で指定したWebアプリケーションに入力するよう指示します。



この4ステップで自動化の開発は終わりです！
開発したこのワークフローをロボットに実行させると、ロボットが受信したメールから添付ファイルを探し、取引先情報を自動でアップデートします。



たとえば、こんな業務がRPAのロボットで自動化できます

例2

顧客リストをもとに各顧客への案内メールの下書きを作成する

Microsoft Excelの顧客リストをもとに、各顧客への案内メールの下書きを作成する作業を自動化する例です。

Microsoft Excel、Word、Outlookとの連携機能により、シンプル・迅速に自動化の開発が可能です。



1

顧客リストのデータが入ったExcelファイルを読み出す

顧客リストのデータが入ったExcelファイルデータを、データとして読み出すよう指示します。

2

テンプレートからメール本文作成用ファイルを作成する

Wordで作成したメールのテンプレートをもとに、メール本文用のファイルを作成します。

3

テキストを置換し顧客の名前を入れる

メール本文用のファイルに顧客リストのExcelから顧客名を抽出し、置換して個別の顧客向けのメール本文を作成します。

4

Outlookでメールを下書きに保存

顧客名が入ったメール本文を、Outlookの下書きとして保存します。



この4ステップで自動化の開発は終わりです！
開発したこのワークフローをロボットに実行させると、ロボットがリスト内のすべての顧客宛の下書きを自動で作成するので、人の作業は下書きされたメールを最終チェックして送信するだけになります。

失敗しないRPAツールの選び方とは？



いざRPAを導入するとなった場合、どのようにRPAツールを選定すればよいのでしょうか？
自社に合ったRPAツールを選ぶには、次の5つの観点でツールを比較検討することが重要です。

</> 開発スタイル

ITに詳しい**プロの開発者**や**専任の開発者**がRPAの開発を行うか、**経理や営業など業務部門のユーザー**が開発を行うかで、ツールの向き不向きを選定することができます。

どちらも平行しておこなうことができるツールを選べば、企業全体の自動化と、個人の作業の自動化を同時に進めることができます。



導入規模

自動化する業務の数や、RPAを導入する部署の数、導入するロボットの台数などの規模感によっても相性のよいツールを選ぶことができます。

RPAの場合、最初は一部の部署で小規模に開始し、あとから全社展開をするという「**小さくいれて大きく育てる**」という方法が**効果が高い**と言われています。



利用中の社内システムとの親和性

すでに利用している社内システムを使った業務を自動化する場合、そのシステムとの相性がいいツールを選ぶ必要があります。多くの企業では、一つの業務をおこなう際に複数のシステムにまたがって操作をおこなうため、**様々なシステムで安定して動作するRPAツール**を選定することで、エラーが減少し、メンテナンスの負荷が小さくなります。

また、API連携による自動化とGUI(画面上のUI)による自動化の両方を組み合わせることで、より柔軟な開発が可能になります。



構築環境

RPAには、**オンプレミスで導入するツール**と、**クラウド環境で導入するツール**があります。自社に合った構築環境を選択することで、最適な運用が可能です。

クラウド環境で導入する場合、プライベートクラウドやパブリッククラウドなどで導入する選択肢についても検討できます。



管理性・堅牢性

社内でRPAのロボットが複数実行される場合、それらを安全に管理する必要があります。

ロボットを集中管理し稼働状況やエラーのモニタリングや、ライセンスやユーザー情報の管理などができる**管理機能が充実したRPAツール**を選ぶことで、RPAの利用が拡大した際にセキュリティやメンテナンスの負荷を最小限に抑えることができます。

UiPathのRPAをご利用いただく5つのメリット

UiPathが提供するRPAソリューションは、充実したサポートや学習環境の提供はもちろんのこと、製品として下記の5つの特長があります。



</> プロフェッショナル開発にも現場ユーザー開発にも対応

ITに詳しいプロの開発者や専任開発者向けの開発ツールUiPath Studioと、経理や営業など業務部門のユーザーが開発を行うための開発ツールUiPath StudioXをお選びいただけるため、開発スタイルに合わせて導入ができます。

自動化する業務プロセスに応じて2つを使い分けることで、**企業全体の自動化と、個人の作業の自動化を同時に進めれば、最大の効果を引き出すことができます。**



大規模にも小規模にも最適。あとのからの拡張も容易

UiPathの製品構成では、小規模に導入してあとから規模を拡大することが容易に実現できます。一部の部署で小規模に開始し、あとから全社展開をするという「**小さくいれて大きく育てる**」という方法で無理なく導入が開始できます。一つの部署で開発し使用し始めた自動化ワークフローを全社的に利用したい場合や、部署ごとに少しずつカスタムして拡大したい場合でも、**展開や管理が容易**にできるように設計されています。



画面UIの自動化やAPI連携で、あらゆるシステムと高い親和性

UiPathは、画面上のオブジェクトを高精度で認識するため、経費精算や基幹システム、顧客情報管理ツールなどすでにご利用中の多くのシステムにおいて正確に自動化を実現できます。クラウドサービスなどのAPIを使って自動化することもできるので、動作が安定し、また高速な処理が可能です。

画面UIによる自動化とAPIによる自動化を使い分けることで、用途に合った最適な処理を実現でき、高い効果が得られます。



オンプレもクラウドも、選べる構築環境

自社サーバーを用意して使うオンプレミス版、パブリッククラウド、UiPath Automation Cloud™と**構築環境を自由にお選びいただけます。**

クラウドならインフラの構築やサーバー管理は不要で、柔軟性が高く、テナントの追加も簡単。冗長性も最高レベルに構築された環境をそのままご利用いただくことができます。



優れた管理機能でロボットやライセンスを安全に管理

管理ツールUiPath Orchestratorを使用すれば、組織内のすべてのロボットのプロビジョニングから、展開、実行、監視、測定、追跡、セキュリティの確保、ライセンスやユーザーの管理、クレデンシャルの管理まで、**あらゆることをブラウザまたはモバイルデバイスから安全に管理**できます。

また、Orchestratorの導入によって、**リモート実行やスケジュール実行で自動処理**をおこなうUnattendedロボットを利用することができるようになり、自動化の幅が広がります。

1 選べる2つの開発スタイル

全社的な業務自動化と現場業務の自動化を組み合わせ 企業全体の業務改革に高い効果を発揮

日々の業務には、全社的な大規模なプロセスと、現場における個人の作業ベースのプロセスとがあります。RPA開発者のための開発ツールUiPath Studioと、業務部門のユーザー向けの開発ツールUiPath StudioXの2つの開発ツールを効果的に使い分けることによって、企業活動の自動化と現場業務の自動化を同時に推進することができ、自動化の効果のさらなる向上が期待できます。

目的や用途に応じて選べる2つの開発スタイル

Studio と StudioX の比較とそれぞれの特長

	Studio	StudioX
ユーザー	RPA開発者	現場のビジネスユーザー
自動化する業務	あらゆる業務	シンプルな日常業務
開発規模	組織・チーム・CoE*	個人
学習時間	時間・リソースをかけて学習	数時間の学習ですぐ活用

RPA開発者向けに作られたUiPath Studioは、企業や組織において自動化効果の高い業務プロセスを自動化するのに最適なツールです。

UiPath StudioXはプログラミングの知識のない業務ユーザーも直感的な操作で開発ができるので、数時間の学習ですぐに自動化に着手できます。

*CoE(センター・オブ・エクセレンス)とは、自動化プロジェクトの中心となり、RPAを浸透させ適切にリソースを運用するための、組織を横断したチームのこと。

開発スタイルの組み合わせで効果を最大化

全社的にみて工数削減効果の高い業務プロセスは、RPA開発者がUiPath Studioを使って自動化開発し、高い品質で安定した処理をおこなうことで大きな効果が得られます。

一方で、現場で業務部門のユーザーが日々行っている幅広い多数の業務は、自動化開発の難易度が低く、UiPath StudioXを使って簡単に自動化することができます。ユーザー一人ひとりのニーズに合わせた柔軟な自動化で、現場業務の効率化のスピードが上がり、業務効率化とともに働き方改革も進めることができます。

自動化による創出効果と自動化する業務プロセスの数

UiPath Studio

UiPath StudioX

自動化による創出時間効果

RPA開発者
による自動化

現場の業務部門ユーザー
による自動化

自動化する業務プロセスの数

2 拡張が容易な製品構成

現場で開発することでより迅速・効果的な自動化を実現

UiPathの製品構成は、規模の拡張が容易にできるように設計されています。

自動化の浸透度やプロジェクトの計画に応じて、柔軟に規模を拡大していくことが可能です。自動化の規模が大きくなってきてから、RPA開発者によるさらに高度で大規模な開発を開始したり、すでに自動化が浸透している企業でさらに効果を上げるために現場での開発に着手したりと、組織やプロジェクトの状況によって柔軟な展開が可能です。



大企業から中小企業まであらゆる規模のビジネスに最適

UiPathのRPAは企業やRPAプロジェクトの規模を問わず、最適な構成でご利用いただくことが可能です。大規模な企業活動の自動化も、現場の作業の自動化も、最適に実現することができます。

中・小規模の組織やプロジェクトではじめてRPAによる自動化を行う場合でも、初期投資が抑えすぐに効果を出すことができます。

小規模でスタートし、あとから規模を大きくすることも容易で、すべての企業のニーズに合ったかたちで導入することができます。規模やニーズによって製品の構成を変えることで、効果も最大化します。

中小規模で簡単に自動化を始める製品構成の例



現場の業務ユーザーによる開発で 手軽・スムーズに業務自動化に着手

ビジネスユーザー向けの開発ツールStudioXと低コストから始められるクラウド版Orchestrator、人の指示でプロセスを実行するAttendedロボットの構成で、小規模ながらRPAの基本的な機能を網羅。Orchestratorで中央管理しながらも、現場の実務の作業を簡単に自動化し、その場で処理実行することができます。



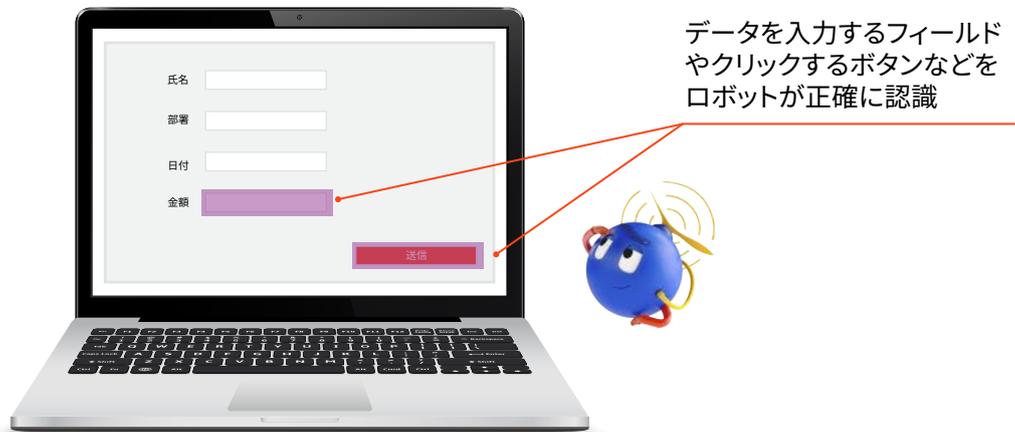
現場の開発とプロフェッショナル開発で 業務改革と働き方改革を実現

StudioXによる現場での自動化と、Studioを使ったプロフェッショナル開発の両輪で大規模な業務改革と現場の働き方改革の両方を実現。人の指示で処理を実行するAttendedロボットに加えて、リモート実行やスケジュール実行が可能なUnattendedロボットを加えることで自動化の幅が広がり、より大きな投資対効果 (ROI) が得られます。

3 他のツールやシステムとの高い親和性

高精度なオブジェクト認識でロボットが安定して動作

UiPathは、画面上のオブジェクトを高精度で認識するため、ウェブページだけでなく、経費精算や基幹システム、顧客情報管理ツールなどすでにお使いの多くのシステムにおいて正確に自動化を実現できます。



コネクタやAPI連携で高速・正確な処理も可能

UiPathが開発・提供している連携部品や、クラウドサービスなどのAPIを使って自動化することもでき、さらに安定した高速な処理を実現することもできます。画面UIによる自動化とAPIによる自動化を使い分けることで、用途に合った最適な処理を実現でき、高い効果が得られます。

ダウンロードするだけで使える連携ソリューション

UiPathの連携ソリューションは、各種業務システムをご利用のお客様向けにUiPathがパートナーと連携して開発・提供しているUiPathの共通部品（コンポーネント）です。開発済みなので、UiPath Marketplaceからダウンロードいただくだけで、ERPやCRM/SFA、BPM、AI-OCR、チャットボット、グループウェアなどあらゆるシステムやアプリケーションをまたがった自動化が簡単に実現できます。

「自動化可能な業務がわからない」「ロボット開発が難しい、負荷が大きい」「ROIが出ない」などの課題を解決し、より勘弁かつスピーディーに自動化を実現できます。



ビジネスアプリケーション (ERP、CRM/SFA、BPMなど)

SAP
Salesforce
intra-mart
JP1
Oracle

勤定奉行
Sansan
東京商工リサーチ
帝国データバンク



グループウェア、インフラ

Office 365
G-Suite
AWS (Amazon Web Services)
Microsoft Azure



AI-OCR

ABBYY
AI inside
Fast Accounting
Cogent Labs
Cinnamon
ネットマイル



チャットボット

BEDORE
CHORDSHIP
Mobilus
NDI Solutions



その他

かんたんBasicアクティビティ
かんたんExcelアクティビティ

4 選べる構築環境

オンプレミスからクラウドまで選べる4つの構築環境

自社サーバーを用意して使うオンプレミス版、パブリッククラウドやプライベートクラウド、UiPathの提供するAutomation Cloud™と構築環境を自由にお選びいただけます。ビジネスの変化に合わせて、構築環境を変えることもできます。



Automation Cloud™でより手軽に、より安全に

UiPathが提供する公式のパブリッククラウドサービスである Automation Cloud™を利用すれば、ハードウェアの準備やインストールなど不要ですぐに使い始められます。管理機能を提供する UiPath Orchestrator の他、多くのUiPath製品をクラウドサービスとして利用できます。また、運用に関するシステム保守もUiPathのデータセンターが行いますので、UiPathの機能活用を手軽に広げることができます。



環境構築が不要

クラウドならインフラの構築やサーバー管理は不要です。柔軟性が高く、テナントの追加も簡単。冗長性も最高レベルに構築された環境をそのままご利用いただくことができます。



クラウド標準の認証システム

Automation Cloud™はクラウド標準の認証システム Auth0 をサポートしています。Microsoft(Azure AD), Google, LinkedIn と連携した認証システムを利用し多段階認証の強固なセキュリティが実現できます。



低コストから導入

クラウド版ならロボット一台から Automation Cloud™をご利用いただけます。初期投資がかからず、優れた管理機能をすぐに体験いただけます。サーバーやハードウェアのコストもかかりません。



5 安全・堅牢な管理機能

すべてを集中管理するUiPath Orchestratorとは？

UiPath Orchestratorは、一元化されたロボット管理ダッシュボードです。

UiPath Orchestrator により、ライセンスの使用状況やロボットの稼働状況を把握したり、ロボットをリモートでコントロールしたりすることが可能になり、**大規模な自動化の実装や管理の一元化、柔軟な働き方を実現**することができます。

UiPath Orchestratorにはオンプレミス版やクラウド版などがあり、ニーズに沿った柔軟な選択ができます。



ロボットの稼働状況やリモート実行を可能に

管理画面のダッシュボードでロボットの稼働状況やエラー発生状況を管理することができ、開発したワークフローの社内展開も容易になります。

指定した日時でロボットを動かすスケジュール実行や、メール受信などのタイミングでロボットを動かすトリガー実行が可能になり、ロボットを動かすたびに人間が処理開始を指示する必要がなくなります。タイマーで、実行忘れもなく効率的な自動化が実現できます。

UiPath Orchestratorの5つの特長



すべてを集中管理

ライセンスや権限の管理、ロボットの稼働状況やエラー発生状況の把握、開発物のパッケージの管理など、様々な管理機能がすべて1つに。ダッシュボードで視覚的に情報を管理できます。ビジネスのニーズに応えながら、確かなガバナンスを実現します。



柔軟性・拡張性

アセットや資格情報の管理で、安全に、柔軟に自動化を展開することができます。マルチテナントで運用効率やコスト効率も最適に。開発したワークフローを社内に展開し管理することも容易です。リリース管理、バージョン管理も簡単に。



リモートコントロール

プロセスの実装、監視、廃止など、Unattended ロボットの制御をリモート・リアルタイムで実行できます。Unattended ロボットのスケジュール実行や、メール受信などによるトリガー実行で、より効率的なロボット運用が可能になります。



モバイルアプリ

Orchestrator Mobile アプリを使って、外出先からでもロボットの状況を安全に確認し、ジョブを管理することができます。リアルタイムのアラートでロボットやマシンの稼働状態、ライセンスの利用状況を視覚的に確認できます。



外部システムと連携

強力な API を活用して、ERP、BPM、その他あらゆるサードパーティシステムと、REST ベースのウェブサービス上で連携できます。また Webhook を利用して、外部システムとの連携を簡素化することができます。

UiPathで業務自動化のライフサイクルがすべて一つに

UiPathは、業務自動化のライフサイクルのすべてのフェーズをサポートするエンドツーエンドの自動化ソリューションです。

ルールベースでプロセスを自動実行するRPAだけでなく、AIのテクノロジーを組み合わせることで、予測や分析、自動化可能な業務プロセスの発見、文字・画像認識やコンタクトセンターの一次対応の自動化など、自動化の幅は更に広がり、高い効果をもたらすことができます。

UiPathは、RPAベンダーとしてグローバルで唯一、企業活動の自動化を一気通貫で支援し最大限の効果を発揮するための製品群を提供しています。エンドツーエンドの自動化によって、これまでのRPAによる自動化の枠を超えて、より幅広い領域の自動化と、デジタルトランスフォーメーションの推進を可能にします。

エンドツーエンドの自動化を実現するUiPathの製品領域

 プロセスアナリスト	 開発者	 IT管理者	 ロボット	 自動化ユーザー
 発見 AIを使った科学的なアプローチで業務の自動化を計画・自動化する業務を発見	 開発 ワークフローの開発を民主化し、シンプルなものから複雑なものまで、自在に開発	 管理 自動化をエンタープライズ規模で運用管理、展開、最適化	 実行 アプリケーションやデータを操作するロボットを通じて自動化を実行	 協働 人とロボットを1つのチームとして連携させ、円滑なプロセスコラボレーションを実現
 測定&統制 自動化のプログラムがビジネスの成果に結びつくように管理		 CoE リーダー		

充実したオンラインコミュニティや学習サービス

UiPathでは、UiPathユーザーで質問や回答をして知識を深めるUiPath Forumや、オンライン学習サービスUiPathアカデミーを無料で公開しており、ユーザー個人のペースで学習を進めることができます。

UiPathアカデミーでは、はじめて自動化を始めるユーザー向けのコースや、プログラミングスキルのある人向けの上級コースなど、多彩なオンラインコースを用意しておりどなたでも目的に合わせて学習していただけます。



RPAを導入してビジネスを加速させましょう

実際にRPAを導入している企業ではどのような効果が見られているのでしょうか？
作業を短縮することによる創出時間以外にも、副次的な効果も含めてRPAには下記のようなメリットや効果があります。



DXの加速

63%のグローバルエグゼクティブが、RPAはDXにおける重要な要素だと回答しています。

Pegasystems survey



コスト削減

RPAは世界中のあらゆる業種において、業績の向上に迅速で重要な改善をもたらします。

IT Central Station: Key Drivers of Time to Value in RPA



レジリエンス

RPAロボットは繁忙期のワークロードや需要の急激な加速に柔軟に対応します。

Learn how RPA helped scale COVID testing



ヒューマンエラーの減少

57%がRPAによって手作業のヒューマンエラーが減少したと回答しています。

Forrester, "Impact of RPA on Employee Experience"



コンプライアンス対応

92%が、コンプライアンス対応においてRPAが期待どおりもしくは期待以上の効果をもたらしたと感じています。

Deloitte "3rd Annual RPA Survey" 2018



生産性の向上

世界で働く人の68%が自動化によって仕事により生産的になると感じています。

UiPath survey of 4,500 global workers



高付加価値業務へのシフト

60%のエグゼクティブがRPAによって人間がより戦略的な仕事に集中できるようになると回答しています。

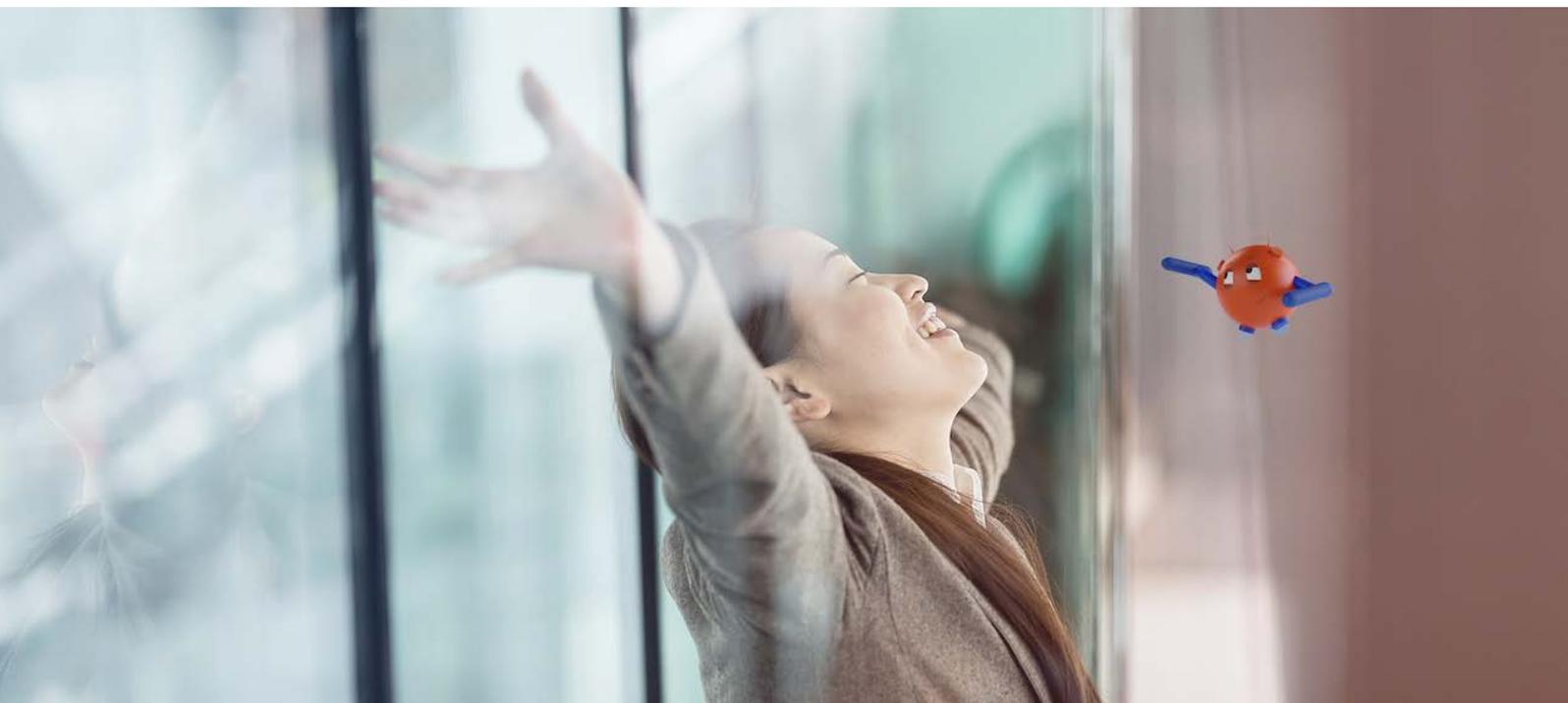
Forrester, "Impact of RPA on Employee Experience"



従業員満足度の向上

57%のエグゼクティブがRPAは従業員の満足度を向上させると回答しています。

Forrester, "Impact of RPA on Employee Experience"





A Robot for Every Person

すべての人がロボットを使いこなす世界へ

UiPathは、「A Robot for Every Person (すべての人にロボットを)」というビジョンを掲げ、すべての人がRPAやAIを使った自動化の使い手・作り手となることで、人々の無限の可能性を解放できるよう支援しています。

UiPathについてさらに詳しく知りたい方へ



様々な業種・職種のUiPath導入事例をご覧ください

[導入事例を見る](#)



60日間無料でUiPathをお試しいただけます

[無料トライアルを始める](#)



UiPath株式会社

〒100-0004
東京都千代田区大手町1-6-1大手町ビル1F SPACES
www.uipath.com/ja

© 2021 UiPath K.K.

- 本資料の内容は 2021年10月 時点のものです。
- UiPathはUiPath社の米国およびその他の国における商標です。
- すべての製品名および会社名は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。これらの名称、商標およびブランドの使用は、承認を意味するものではありません。